

岐阜支部だより

- 1 ー ◎巻頭言
- 2 ー ◎研修会・研究会報告
- 3 ー ◎教育相談Q&A
- 4 ー ◎中部ブロック研修会に参加して

巻頭言

「学校カウンセラー」の資格を 取りませんか

日本学校教育相談学会岐阜県支部
学校カウンセラー委員会委員長

出崎 秀人

「学校カウンセラー」の資格認定の目的

- 学校教育相談の専門家としての資格をもち、学校内の中核的な存在になること。
- 豊富な実践や実績等、その経験を学校内外で生かすために資格を取得していることが有利に働と思われる。会員の自己実現とともに、ライフワークとして資格の取得を目指すこと。

認定申請の条件

〔基礎条件〕

- 学会の会員として3年以上所属、3年間会費を納めている。教職経験（指導主事を含む）が10年に達している。教育相談係（またはそれに準ずるもの）として5年以上の経験がある。

〔必要な内容の確認、資料の用意〕

- 教育相談の実績をもち発表している（5例以上）。研究発表の実績は申請5年以内に1回以上口頭発表あるいは論文による発表がある。
- 学校カウンセラーにふさわしい研修を受けていて、修了証等がある。学校カウンセラーとして、校内や相談機関で他の教職員と連携を保ち業務を遂行するにふさわしい識見・人格をもっている。

認定の手順

〔認定申請書類の請求〕

- 学会本部認定委員会事務局宛に認定申請書類一

式を請求する。

〔認定申請書類の提出〕

- 8月下旬まで、申請書類に必要な事項を記載し申請する。

〔認定審査料の振り込み〕

- 認定、審査（書類、面接等）の認定審査料を申請時に振り込む。

〔認定審査と認定の決定〕

- 認定には、各支部の推薦審査→本部による書類審査→本部の面接審査により行う。面接は毎年1月中旬から2月下旬までの土曜日、日曜日に、東京・大阪・福岡等で実施する。

学校カウンセラーの更新制度

- 5年毎に更新する。更新ポイントは、各領域（実践、研究、研修）毎に5ポイント、全体で30ポイント必要という制をとっている。

「学校カウンセラー」認定のための研修履歴

- 学校カウンセラー認定規則では、第2条の目的に「学校内において学級担任・養護教諭等と連携・協力して学校教育相談活動を推進している教師を一定基準により認定する」とあり、一定以上の研修履歴が必要となる。3つの分野について次のように理解し申請書類に分類・記入する。各分野とも2時間程度の研修を8回以上必要ですが、長期研修・内地留学等で継続的に研修した場合には、研修履歴Bの用紙に記入し、その内容を研修履歴Aの用紙に分類して記入する。研修履歴Bについては一括して分かる修了書のようなもの、研修履歴Aについてはそれぞれの修了書が必要となる。



3分野：学校教育相談に関する理論

心理臨床に関する理論

学校教育相談の技法に関する理論

□まず、岐阜県支部の研修に参加しませんか。

◇研修会・研究会報告◇

第1回研究会・第47回研修会報告

開催日：平成20年10月18日（土）

会場：岐阜県岐阜市「岐阜女子大学」

1. <学校カウンセラーによる講話>

「不登校に関する援助の実際」

羽島市立竹鼻小学校 養護教諭

大見 真智子先生

昔と今とでは不登校のタイプが大きく変わってきている。しかし、昔も今も変わらず大切にしたい援助がある。

1. 不登校児童生徒との関係づくり

関係づくりの第一歩は気づき。いつもと何かが違うと感じたら、早めに1対1の時間をとる。長く時間をとることが難しければ短かくてもいい。

「あなたのことを気にかけているよ。」というメッセージを送る。最近、増加傾向にある働きかけないと動かない無気力な不登校に対しては、基本的な生活習慣を整える「生活リズムづくり」を第一に考えたい。

2. 保護者との関係づくり

保護者から子どもの様子を聞くときは、「親子関係は相当こじれているだろう」ということを覚悟して聞き、「大変ですね。」というねぎらいの言葉から始めたい。学校からは子どもへの援助の動きを細かく伝える。保護者は学校が自分の子どもを心配してくれていると感じた分だけ、学校からの援助を受け入れようとする。

3. 学級の仲間への働きかけ

学級の仲間へ不登校児童生徒の理解を促すとき、「誰にでも得意・不得意がある」という視点で語ることが大切。「先生は困っている子には、どんなことでも助けてくれる」ということが伝われば、学級の仲間も不登校児童生徒への関わり方を学ぼうとする。

4. 専門機関との連携

専門機関を勧めるタイミングは、子どもの状態がよほどの場合でない限り、焦らず時期を待つことが必要。受診するようになったら保護者を通じて専門機関とのパイプをつないでいく。

援助者に必要なことは、知識・技術はもちろんのこと、子どもや親の今おかれている状況を思い、関わろうとする姿勢であり、人間性を磨くことが大切である。

2. <事例研究会&実践交流会>

事例研究会では、次の2名の先生から事例を提供していただき、実践交流を行いました。

①平松 清美 先生（岐阜女子大学）

「不登校から引きこもりになったAに対する心理教育的サービス」

②野村 忠弘 先生（春日小学校）

「抜毛症A児への対応 ～ブリーフセラピーの手法を使って～」

第2回研究会

開催日：平成20年12月6日（土）

会場：岐阜県岐阜市「岐阜女子大学」

1. <事例研究会&実践交流会>

今回の事例研究会では、次の4名の先生から事例を提供していただき、実践交流を行いました。

①川上正子先生（平成医療専門学校）

「予防的見地からの学校内相談体制づくり」

②松嶋公雄先生（むげん心理療法研究所）

「催眠特性を生かした教育相談の実践」

③草野 剛先生（串原小学校）

「中学校への移行期不安をかかえた女兒への時間制限カウンセリング」

④平林克友先生（大垣市教育研究所）

「学校との関係をうまく保てない保護者を持つ児童（不登校）について」

◇教育相談Q&A◇

このコーナーは、教育現場で悩んでみえることについて、学校カウンセラーの先生にQ&A形式でお話いただくコーナーです。

Q：学級内に、LDの中の読字障害が疑われるA男がいます。漢字ドリルの宿題の量をA男だけ減らしてみました。すると、隣席のB男が、「A男君だけずるい。」と言うので、宿題の量を減らす方法をためらっています。“特別扱い”をすることはよくないことなのでしょうか。

A：結論から言えば、“特別扱い”することを恐

れることはありません。学級の中のある一人について、その子にとって最も適切と思われる指導・支援をすることが、本当の意味での教育です。

私たちはいくらかでも“特別扱い”をしています。腕の骨折をしている子は、跳び箱の授業を見学させます。熱が上がってきた子は、保健室で休ませます。牛乳アレルギーのある子に、牛乳を無理に飲ませることはしません。食の細かい子には、給食の配膳の際に量を減らしています。こうした支援は、多くの場合、そのことによって「あの子だけずるい」などと批判や妬みを受けることはありません。みんなと同じことができないことが、誰の目にも明らかだからです。

ところが、学習に関する面や生活に関する面では、ご質問のように、「なぜあの子ばかり？」と言われることが少なくありません。そう言いたくなる要因として、2つのことが考えられます。1つは“特別扱い”されなければならない子の状況（この事例ではA男の学習状況）が他の子にはわかりにくいこと、もう1つは周囲の子（この事例ではB男）自身が不満をもっていることです。

A男の学習状況を的確にとらえ、それに対する対応に苦心されている担任の先生の姿勢は、とてもすばらしいと思います。しかし、A男の状況について、わざわざ説明をする必要はありません。A男に対して担任がその支援をしなくてはならない状況は、いずれB男にも理解できるようになります。むしろ、B男のもっている不満への対応を考えましょう。B男が困っている時に、担任は適切な支援をしているのでしょうか。B男のよさをきちんと認め、その思いをB男自身に伝えるようにしているのでしょうか。つまりB男の不満は、A男だけ宿題が少ないことにあるのではなく、担任の目がA男にだけ向いていて自分の方を向いていないと感じているから生まれているのではないのでしょうか。

担任の先生が、A男にはもちろん、B男にもC子にもD子にも、学級の全員に対して“特別な”対応をすれば、子どもは担任を「困った時には必ず助けてくれる先生」だと考えます。金子みすゞ風にいえば、「みんなちがって、みんないい」対応を心がけてみましょう。

美濃市立美濃小学校 教頭 古田 信宏

Q:高校の保健室での個別相談のあり方を教えてください。

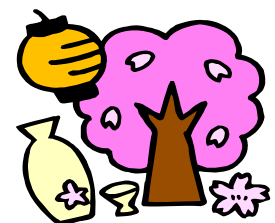
A: 高校生に起こる心の問題は、自我形成や自立等の課題に向き合うことで、これまでに抱えてきた未解決な問題や感情が出てくることが多くあります。現れる症状には、情緒反応から神経症レベル、時には病的症状を見ることがあります。

近年、保健室で多く見られるようになったリストカット等の問題行動は、人間関係のネガティブな体験による不快な感情表出や、生き辛さをわかってほしいという行動として捉えることで、自己表出として理解でき、どう関わればいいのかが見えてきます。また、このような重い問題と出会う今、臨床心理的知識・理解・理論の必要性和事例研究の大切さを感じます。これは問題に対応できる力と体制の中でサポートしていくにあたっての説得力につながると考えます。

相談を進めるにあたっては、その生徒が保健室を選んで来たという「関係性」を中心に、目の前にある問題をどう扱っていくかを明らかにしていく必要があります。現在、私はその実践にあたって、必要に応じて「枠」のある面接を実施しています。生徒と相談の上、時間（50分程度）、曜日（週1）、場所（放課後の保健室）を設定して、守られた空間の中で問題と向き合います。これまでリストカットや自己臭を訴える生徒と行ってきました。

学校での枠作りには困難性を問う声もありますが、枠の中で向き合うことは、保健室で向き合うこととは生徒が語る内容の深さが違うことを実感しています。もちろん継続して行う場合は、養護教諭自身が自分の限界を知っておかねばなりません。また、ケース検討を行うにあたっては、問題に合った相談の進め方を「関係性」を中心に考え、専門的な知識・理解・理論をもとに問題を捉えたり理解を明確にしたりすることが、個の援助だけでなく、相談体制の中に養護教諭の役割を位置づけられるものになると考えます。

聖徳学園付属高等学校 養護教諭 飯田孝栄



日本学校教育相談学会

第1回 中部ブロック研修会参加報告

開催日：平成20年11月1日（土）

会場：新潟県上越市「上越市教育プラザ」

1. 【意見交流会】

「不登校の背景を改めて問い直す」というテーマで、各支部の状況などのデータをもとにして、意見交流が行われました。

意見交流の中では「家庭の背景」、「発達障害が疑われる児童の場合」などの視点から体験をふまえた意見交流がされました。

「家庭の背景」については、

- ・表面上は「学校に行かなくても構いません。」という保護者が増えているが、そう考えることによって保護者の自我を守っているのだから、その心情に寄り添うことが大切だ。
- ・親自身のストレスなど、保護者の状況も複雑になり、子どもの不登校の問題に向かっていく力がなくなっている場合も増えている。保護者自身を支えてくれる地域との連携を考えていきたい。

「発達障害が疑われる児童の場合」については

- ・就学時の検査で、発達障害が疑われる児童に出会っても、その後どうしたらよいかという情報がなくて、そのまま入学している場合が多い。その結果、児童だけでなく、周りのクラスメート、担任、保護者など多くの人が長い時間の苦しむ結果になっている場合も多い。
 - ・関係機関や相談内容に応じた相談先などの情報を、早めに提供できるようにしておくことが大切になる。
- などの話し合いがされました。

2. 【講演】

「不登校・登校拒否の背景と対応を考える」

中央大学文学部（心理学研究室）教授

横湯 園子先生

不登校の背景を考えると、要因も表れ方も様々であり、一括りにすることはできない。しかし、不登校の子どもが、「いじめ（暴力）」の被害者である場合が意外と多く、指導に当たる者がいじめのプロセスを理解していることが大切になる。

いじめのプロセスは「孤立化→無力化→透明化」の過程をたどる。

第1段階の孤立化では、加害者が被害者を標的化し、被害者が警戒し続ける心理状態が持続することで「孤立無援」を感じる時期である。

第2段階の無力化では、被害者に「反撃は小さい無効である。」と実感させる時期である。

第3段階の透明化では、被害者にとっては、大人も級友も実に遠い存在になり、加害者との関係が永久に続くように思われる時期である。この状態に至ると、自殺が自己の尊厳を守る唯一の方法となりかねない。

このプロセスから回復させていくには、プロセスを逆にたどりながら、「私は一人ではなかった。」と実感することである。いじめ被害にあった子どもを理解し、寄り添っていく場合には「わかりたい」という姿勢で接することが基本になる。

不登校の子どもと接する場合に、このことは是非お願いしたいことは、

①自己実現への道を開いていくことを授ける（短期決戦を自戒したい）。

学校に登校できるようにすることを解決と考えるので、焦らず、生きることを目標にしてほしい。

②親の労をねぎらいたい。

親は様々な苦勞、危険の中で頑張っている。長い解決への道のりを共に歩める関係を作ってほしい。

③他領域との共同を。

子どもを支える家庭の力が弱くなっている。学校が抱えられることの限界を自覚して、福祉など他領域の力を活用して取り組んでほしい。相談学会中部ブロックとして行われる、初めての研修会でした。支部による状況の違いや共通して抱えている問題など、有意義な研修会となりました。（文責：広報委員 郷田 賢）

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第2号

2009年（平成21年）2月30日発行

発行：日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集：日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~sodangif/>

E-mail : sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp